

Q 一本松駅のバリアフリー化と南口の開設

小川 茂 議員



A 駅施設の利便性の向上を図る

質問一 鉄道事業者や県など、関係機関との協議状況について。

二 ホームをつなぐ跨線橋やホームの拡幅などの大規模改修の必要性について。

三 南口を開設した場合の現改札口の取扱いについて。

四 南口駅前広場の整備について。
五 バリアフリー化と南口開設に向けた具体的な考え方について。



一本松駅南側

答弁一 (市長)

東武鉄道では、バリアフリー化の整備を先行して行いたい意向であり、調整を進めている。県とは一本松駅の実情について共通認識を図り、支援をお願いしている。

二 バリアフリー化を行う場合には、上・下線ホームへのエレベーター、エレベーターをつなぐ跨線橋の設置等が必要となるが、ホームの拡幅の予定はない。

三 駅員の配置から、現在の改札口をそのままに、南口を開設することは難しいと東武鉄道から聞いている。

四 用地の確保が終了し、平成29年度には約2000平方メートルの南口駅前交通広場の整備と一本松駅入口交差点の改良を予定している。
五 南口駅前広場の整備と連携して駅施設のバリアフリー化と南口の開設を一体的に進めたい。

Q 戦争について学校ではどう教えているか

高田 克彦 議員



A 学校の教育活動と自主的なPTAの活動は異なる

質問一 市の平和政策は。
二 8月を憲法と平和を考える月に設定し、市の姿勢を鮮明に。
三 子どもたちの現状と精神状況をどうみているのか。
四 教育勅語を礼賛する記事を掲載した杉下小学校の「杉の子」に対する責任は。
答弁一 (市長) 24年3月に平和都市であることを宣言し、第5次鶴ヶ島市総合計画後期基本計画では平和意識の高いまちを目指すとしている。広島市平和記念式典児童派遣事業による平和意識の高揚のほか、平和首長会議に加盟し、平和施策に取り組んでいる。
二 8月には広島市へ児童を派遣



中学校の授業

して参加報告会を開催し、広報やホームページ等で情報発信するなどしている。今後も平和に対する考えを広く発信していく。
三 (教育長) 自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であると認識している。他者を思いやる心などの豊かな人間性を育むことが必要である。
四 「杉の子」は、PTA広報誌である。発行の表記は、次回から修正すると聞いている。
◎その他の質問
一 人々を惹きつける政策は何か
二 農業大学校跡地開発による大谷川の治水対策について